

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

＜火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続＞

本日（9 月 13 日）午前、航空自衛隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は、5 月 31 日と比較して特段の変化はありませんでした。

9 月 7 日の噴火以降、噴火は発生していません。

【防災上の警戒事項等】

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、風に流されて直径 4 cm 程度の小さな噴石（火山れき）が新燃岳火口から 10km を超えて降りました。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報に注意してください。

○活動概況

・上空からの調査（図 1）

本日（9 月 13 日）、航空自衛隊航空救難団新田原救難隊の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は、5 月 31 日と比較して特段の変化はありませんでした。白色噴煙は、溶岩縁辺から火口縁上 100m 程度上がり、西に流れていました。

・地殻変動及び地震・微動の発生状況（図 2）

傾斜計では、火山活動に伴う特段の変化はありませんでした。

火山性地震は、9 月 7 日の噴火以降、増減を繰り返しながらやや多い状態で経過しました。また、火山性微動は、時々発生しました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

- ・ 火口内に蓄積された溶岩に大きな変化はありませんでした。
- ・ 白色噴煙は、溶岩縁辺から火口縁上 100m 程度上がり、西に流れていました。

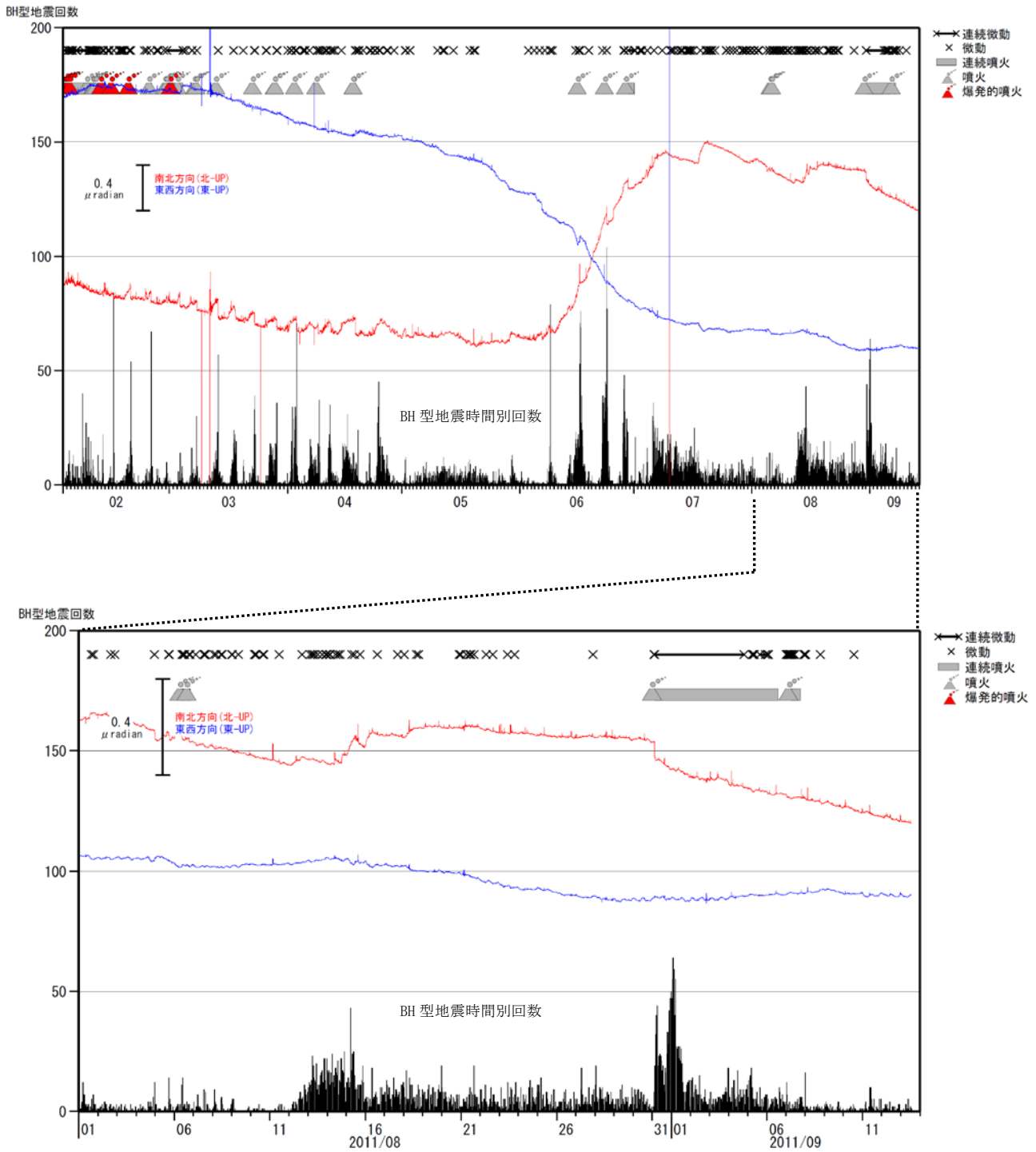


図2 霧島山（新燃岳） BH型地震¹⁾の時間別回数と高千穂河原傾斜計の変化
(2011年2月1日00時00分～9月13日14時00分)
火山活動に伴う大きな変化はありませんでした。

1) 火山性地震のうち、火口直下の比較的浅い場所で発生し、周期の長い地震をB型地震と呼びます。B型地震は、マグマの通り道（火道）の中で、マグマやガスが移動したり、マグマが発泡したりすることで発生すると推定されています。B型地震のうち、比較的周期が短いものをBH型、長いものをBL型と分類しています。